

## 「食のリスクコミュニケーション意見交換会（高松）」参加者のご意見等

食のリスクコミュニケーション意見交換会（平成 16 年 1 月 30 日、高松市）の参加申込み書に記入のあった「食品の安全性確保に関するリスクコミュニケーションについての意見等」は以下のとおり。（平成 16 年 1 月 20 日～27 日まで受付分）

多面的かつ多層な意見にふれ食教育に還元できればと期待しています。

知識を深める為に参加します。

県内においても農家が自家製の農産物や加工品を直接売る「産直市」が大変の人気です。私自身も道の駅などに常設する市で野菜を買うとなぜだかおいしいのです。

生産者の名前がわかり農薬の有無も書いてあるので、安心感があるのです。形がいびつな野菜はスーパーで買うものと比べると粗末ですがとても身近に感じられるのです。しかしあまりにもたくさん「産直市」ができ運営が大変になり、問題が出てこないか心配です。

自家製の「もち」、「みそ」、「つけもの」なんかには表示義務はどうなっているのでしょうか。農家の人たちが製品について正しい知識をもって製造してほしい。

リスクアセスメントに協力しているので背景について理解を深めたい。

この高松で直接、食の安全行政の今について聞けるととても素晴らしいチャンスと思い応募しました。学識経験者の方や行政の方のお話がとても楽しみです。

今後の BSE 対策など輸入食品の安全性について当局の考え方や情報発信の仕方なども聞きたい。

食品の残留農薬のポジティブリスト化が予定されているが、加工食品についてはどのように規制されるのか。農畜産物の場合は、使用される農薬の種類も限られるが、加工食品は種類も多くなりすべて把握するのは輸入者では難しい面もある。一斉分析法などの開発がのぞましいが、その場合感度が問題になる。個々の原材料との整合性はどのように考えれば良いのか。検出法は機械の種類ではなく、試験法の詳細まで踏み込んだ内容としてほしい。

健康食品に携われるようになってから、食の怖さをつくづく感じています。

少しでも、知識を得られればと思い参加します。